



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です



## 一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薊町長屋1963  
(株)エホリューション内 (☎0596-63-5080 FAX0696-65-7006)  
E-mail [info@3c-mie.net](mailto:info@3c-mie.net) <https://3c-mie.net/>



日本では昔から「1月往ぬる二月逃げる三月去る」などと言われ、正月から3月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことから調子よく言ったものです。とりわけ2月は日数も少なく逃げるように過ぎていきます。

しかし齢を重ねると、この時期だけでなく1年があっという間に過ぎていくものです。フランスの哲学者ポール・ジャネは、人生のある時期に感じる時間の長さは年齢の逆数に比例するとする法則を唱えました。

高齢になるほど自分の人生における1年の比率が小さくなって感じるということでしょう。人生100年時代に入ってますます体感時間が短くなっていくのでしょうか。

人の寿命が100歳という一方、満150歳になったのが日本の鉄道です。1872年(明治5年)に新橋から横浜までの間、日本で初めての鉄道が開業しました。そして1914年(大正3年)に東京駅が開業されています。

その東京駅よりも早く造られた駅舎が、玉城町にあるJR田丸駅の駅舎です。1912年(大正元年)に誕生しましたが、その110年の生涯を今年閉じようとしています。



## 「田舎のねずみと都会のねずみ」という童話がありますが、今回は田舎の駅と都会の駅のお話です！



日本の駅の約半分は無人駅になっています。その数は北海道がダントツですが、何と三重県は全国第5位の無人駅数となっています。JR田丸駅もその一つです。

その駅舎も耐震診断で倒壊する可能性が高くなって、この春に解体されることが決まっています。

2年前、近隣の無人駅の様子を見て、またはこの田丸駅舎の将来を考えて、住民のみなさんたちから声が上がリ、「田丸駅でつながるまちづくり協議会」が発足されました。

そこに集うみなさんは、「伝統ある駅舎に思い入れのある方」、「熱心な鉄道ファンの方」、「駅本来の機能を維持させようという方」、「駅を起点に暮らしを考えようとする方」など様々です。

このまちづくり協議会では、これまで手作りで住民アンケートを実施したり、駅舎に思いを寄せたポスターを作成したり、またJRが主催するウォーキングイベントで活動を訴えたりしてきました。また、住民のみなさんに声をかけての集会活動や、「鉄道とまちづくり」という講座を持ってみえる四日市大学の岩崎学長の講演などを開催して、田丸駅への思いを集約し役場に届けてきました。



こうした住民活動を背景に町役場は根気よくJR側と交渉をされ、結果として老朽化した駅舎を解体した跡地に町施設としての駅舎機能を維持した町民交流施設を建設する方向となりました。

その建設に向けては、町として交流施設の設計に住民の意見を取り入れていくべく三重大学で建築学の教鞭をとられている近藤早映先生をファシリテーターとして迎えワークショップを開催されました。

こうしたさまざまな取り組みを経て田丸の駅舎は生まれ変わろうとしています。

もうすぐJR田丸駅舎は無くなりますが、新しいコミュニティ施設は鉄道利用者だけでなく、住民みんなが集うサードプレイスとしてその役割を担っていくことでしょう。

今、「田丸駅でつながるまちづくり協議会」は、『ありがとう田丸駅作品展実行委員会』として田丸駅の姿を心に残そうと写真やイラストの募集を行い3月21日から26日までの間、玉城町内のギャラリー久(きゅう)で展示会を計画しています。

さて一方、都会の駅は今や駅というよりグルメデパートの様相がありますが、その歴史にも深みがあります。

## ありがとう田丸駅作品募集！！



たくさんのお思い出くれた田丸駅舎。そんな田丸駅舎の姿を心に残しておきませんか？玉城町の町民のみなさん、そして玉城町とつながりのあるみなさん、あなたのとっておきの写真・イラスト・文章を募集します。未来に残したい風景や懐かしいあの瞬間など大募集！

**募集期間** 令和5年1月16日(月)～2月20日(月)

**応募方法** 直接持参、郵送またはインターネットにてご応募ください。インターネット応募は、下記のURLから応募フォームにアクセスして必要事項の入力と作品添付をしてください。  
<https://logoform.jp/form/FAUJ7/198757> [QRコード]  
応募は1人2点までです。詳しくは裏面の応募要項をご覧ください。

ご応募いただいた作品は展示を行います。裏面をご覧ください。展示の詳細は後日お知らせいたします。思い出を次世代に伝えましょう！

お問い合わせ先：ありがとう田丸駅作品展実行委員会  
(田丸駅でつながるまちづくり協議会)  
MAIL: [tamarumachikyoo@gmail.com](mailto:tamarumachikyoo@gmail.com)  
TEL: 0596-58-2251 (合同会社たまきあい内)  
この活動は住民主体の自治活動として取り組んでいます。

主催：ありがとう田丸駅作品展実行委員会 後援：玉城町



参宮線開通130周年&田丸駅舎110年をこえる歴史に幕

## ありがとう田丸駅作品展



110年をこえる歴史ある田丸駅舎にありがとう...そして、新たな時代へ  
思い出はつづくよ いつまでも

たくさんの方々からお寄せいただいた写真や絵など...  
もうすぐ解体される駅舎への思いのこもった作品の展示会を開催します。  
お誘いあわせのうえ、ぜひお越しください！

**期間** 令和5年3月21日(火)～3月26日(日)

9:30～16:30(最終日は15:00まで)

**場所** ギャラリー 久(きゅう) (玉城町田丸122)

入場無料・駐車場あり

(おねがい) 時差、感染症対策にご協力ください。

主催：ありがとう田丸駅作品展実行委員会 後援：玉城町



田丸駅やその周辺、参宮線にまつわる品(古い写真、看板、切符、本など)も展示します。  
なつかしい品をお持ちの方はぜひ下記までお知らせください。



〈連絡先〉  
ありがとう田丸駅作品展実行委員会事務局  
田丸駅でつながるまちづくり協議会(たまきあい内)  
TEL:0596-58-2251  
メール：[tamarumachikyoo@gmail.com](mailto:tamarumachikyoo@gmail.com)

### 鉄道開業150年 \*\*\*

1872年(明治5年)新橋から横浜に日本初の鉄道が開業して、昨年は150年の節目の年でした。東京では近代日本の幕開けともいえる鉄道開業当時を偲び様々な催しが行われました。

新橋駅の近くには、1872年(明治5年)10月14日に開業した日本最初の鉄道ターミナル新橋停車場の駅舎の外観を当時と同じ位置にできるだけ忠実に再現した「旧新橋停車場」があります。

文明開化の象徴として親しまれた旧駅舎は、1923年(大正12年)9月1日の関東大震災での火災のため焼失しましたが、1991年(平成3年)から行われた発掘調査の結果、旧新橋停車場駅舎とプラットフォームなど構内の諸施設の礎石が発見され、史跡「旧新橋停車場跡」として国の指定を受け、この史跡を保護しつつ我が国鉄道発祥の往時を偲ぶために駅舎が再建されました。

そこには、鉄道にまつわる様々な展示や、当時を再現したプラットフォーム、0哩標識と再現軌道などがあり、今も多くの鉄道ファンが訪れています。



復元されたホームと線路



線路の起点となる0哩標識



停車場の建物



### 東京駅の開設 \*\*\*

さて、鉄道の駅と言えば、やはり東京駅丸の内駅舎がいちばんに思い浮かぶのではないでしょうか。

田丸駅開業の2年後、1914年(大正3年)12月20日に東京駅が新設され、旅客ターミナルの機能が新橋駅から東京駅に移りました。

東京駅舎は、辰野金吾と葛西萬司が設計し、そのデザインは「辰野式ルネッサンス」と呼ばれ皇居に続く皇室用玄関である「天皇の駅」としてのシンボリックな意味を持っていたそうです。

煉瓦と鉄筋造り3階建ての豪壮華麗な洋式建築で、南北にそれぞれドーム状の屋根の乗降口があり、中央の玄関は皇室専用であったそうです。

関東大震災でもほとんど被害はありませんでしたが、1945年(昭和20年)の東京大空襲により被災し、戦後の戦災復興工事による姿のまま60年以上使い続けられました。

2003年(平成15年)に丸の内駅舎は国の重要文化財に指定されました。

ちなみに重要文化財指定の駅建築物は、東京駅と門司港駅のみです。



そして、2007年(平成19年)4月から始まった重要文化財・東京駅丸の内駅舎の保存・復元工事により、2012年(平成24年)10月1日に現在の姿に生まれ変わり、日本の首都東京を象徴する建築として、また日本一多いプラットフォーム数を誇る乗降客数日本第6位の駅として、国内外の人々に愛され続けています。



### 「場所」は活用することで発展する

このように人々に愛され続ける場所がある一方、忘れられる場所もあります。人々に愛される場所には人々の営みがあり、人が関わり続けることで文化が生まれ、時代に合わせながら発展していくのではないのでしょうか。

田丸駅も東京駅もそれぞれの時代の人々が利用し、生活を紡いできたからこそ、今の姿があるのです。田丸駅の駅舎は生まれ変わろうとしています。新たな歴史を紡ぐのは地域の皆さんや駅を訪れる方々の積極的な参加が大切です。

田丸駅ができて1世紀以上が経ちましたが、次の1世紀に向けて地域のコミュニティ施設としてみんなで活用していきましょう。

全ての駅が誰かの最寄り駅・・・どこか懐かしくあたたかい、後世に残したい鉄道のある風景。

日々の暮らしに疲れを感じたとき、心潤すローカル線は速すぎた心の時計を修復し、また少し頑張れる活力を与えてくれる。

～「画文集 日本の鉄道抒情」さきたま出版会からの内容紹介文から引用